

原発分がなくても日本の電力は足りている

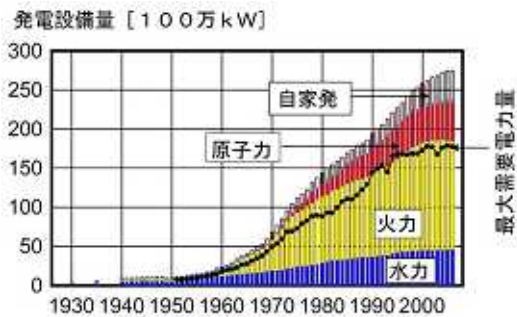
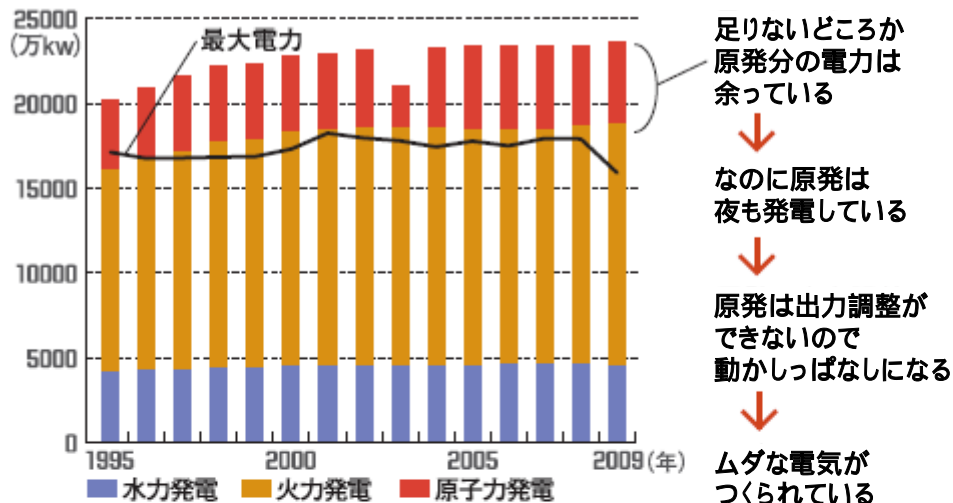


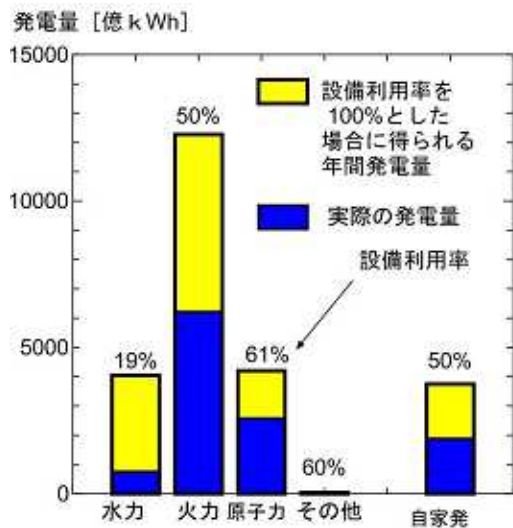
図15 発電設備要領と最大需要電力量の推移
(最大需要電力量は電気事業に関するもののみ。)

電気事業用の発電設備と電力10社の最大電力



出典：「電気事業便覧」より作成

足りないどころか
原発分の電力は
余っている
↓
なのに原発は
夜も発電している
↓
原発は出力調整が
できないので
動かさばなしになる
↓
ムダな電気が
つくられている



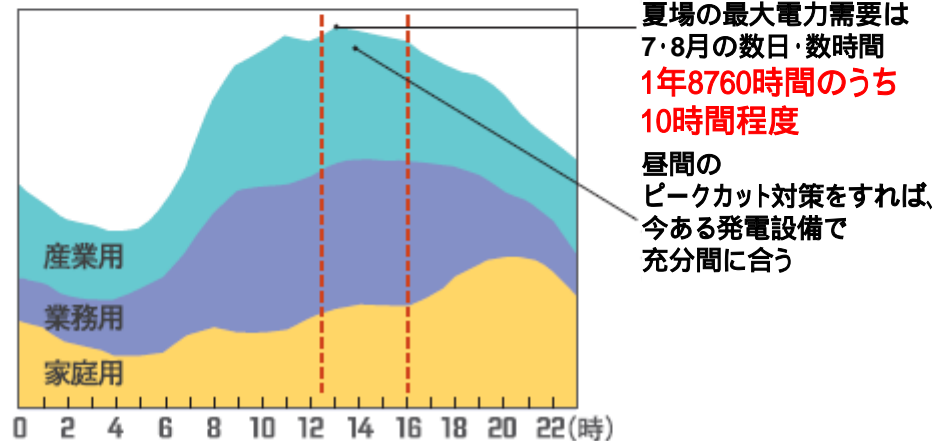
日本の発電設備の量と実績 (2008年度)

全発電設備の年間設備利用率：4.8%
日本では、全発電量の2割以上を原子力発電が担っている。そのため、原子力が不可欠のように考えられてきた。しかし、発電設備は年間の設備利用率が5割にも満たないほど。過剰になっていて、原子力による発電分をすべて火力で担ったとしても、火力発電の設備利用率は7割にも達しない。

図14 原発の発電分は火力で十分に賄える

図14,15 参照 <http://chikyuzu.net/>より

一日の電気の使われ方イメージ



出典：三菱総合研究所作成

夏場の最大電力需要は
7・8月の数日・数時間
**1年8760時間のうち
10時間程度**
昼間の
ピークカット対策をすれば、
今ある発電設備で
充分間に合う

(財)大竹財団発行「ホントに 環境にやさしい電気とは?より」

それでも原発を 推進するのはなぜ？

日本の原子力発電は
儲かる仕組みになっている

日本の電力は地域独占で、9電力(+沖縄)が市場を独占している。電力会社とその周辺は儲かる仕組みができています。日本の電気料金は世界の中でも高い。原発の建設費用(100万kw級)4000億円+揚水発電施設建設の巨額な費用をそのまま電気料金に反映できる制度だから。

いつでも
核兵器開発が出来るよう
用意していたい人々がいる

第2次世界大戦後の米ソ冷戦体制の中で日米安保に組み込まれた、核を持ちたい人々・グループが日本の政官財で強い力を持っていた。彼らは「日本はいつでも核兵器がもてる体制・準備をしておく、今は持たないけれど…」と。

だから1953年12月の米国のアイゼンハワーの提案(原子力平和利用のための国際管理機関設置)の後、すぐに日本初の原子力予算が決まった。